

北海道文教大学

後援会 会報

No. 3

CONTENTS

後援会活動報告	1
理事長・学長挨拶	2
就職活動について	3
学園創立65周年記念事業による助成	4
平成20年度父母懇談会を終えて	4
後援会文庫	4

平成21年3月1日(日)

発行責任者 伊藤誉志久
発行係 〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
北海道文教大学事務局学務部教務学生課内
北海道文教大学後援会 TEL 0123-34-0011

後援会活動報告



北海道文教大学後援会会長
伊藤 誉志久

会員の皆様には日頃から後援会の活動にご理解と協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、ご承知のように、北海道文教大学後援会は、文教大学並びに短期大学の建学の精神に則り、会員の皆様方相互のご協力によって、大学と短期大学部を後援し、その発展充実に寄与することを目的として、会員の皆様方からお預かりした会費収入により、様々な事業を展開しているところです。

本号では今年度の後援会事業の中から特徴的な事例について、会員の皆様にご報告させていただきます。

学校法人鶴岡学園

創立65周年記念事業

昨年(平成20年)は大学、短期大学部、高校、そして幼稚園を運営しております「学校法人鶴岡学園」の創立65周年の大きな節目に当たることから、後援会としても何らかの記念となる事業を展開したいと考えていたところです。

時機を失することなく、記念となる事業の展開を行いたいと考え、様々な方面から事業内容の検討を行った結果、大学においては、学生さんの希望が強い自習スペースの設置に対して助成を行うこととし、大学側が整備致しました「グループ学習室」の設置費用について助成致しました。

事務局からの報告によりまずと、朝早くから

利用されるなど、学生さんからは大変な好評を得ているとのことでした。

また、短期大学部につきましては、事務局側との協議した結果、毎年開催されており「保育フェスティバル」で使用する楽器の整備を行うことと致しました。

後援会文庫

平成19年度に後援会役員会の中に設置致しましたWG(ワーキング・グループ)における新規事業の検討を経て、平成20年度から事業化致しました「後援会文庫」につきましては、お陰様を持ちまして学生さんからの要望を基本とした事業展開により順調に推移しております。

大学、短期大学部とも資格取得が大きな目標となる学科が多いこともあり、今後は更に事業の充実強化を図る必要性を検討している段階にあります。

父母懇談会

今年度は、恵庭キャンパス、札幌キャンパスのほか、地方都市開催として釧路市と函館市において地方父母懇談会を開催しました。広報宣伝に努めた効果が出たのか的確な判断はできないもの、お陰様で恵庭キャンパスでの父母懇談会は昨年にも増して盛況でしたが、地方では2市の合計で45名の出席と例年並みとなりました。

それでも、出席された方々の中からは、将来的には卒業生の様々な方面での活躍などにより、後援会の支部が各地に展開できるようになれば良いなどのお話もあり、有意義な会であったと考えております。

今後とも、引き続き開催して参りたいと考えておりますので、会員の皆様には是非とも時間を作っていただいで出席されるようお願い致します。

WGの活動状況

WGについては、今年度も65周年記念事業をはじめ、引き続き新規事業の検討などを行うこととし、3回開催して参りました。

役員会とは構成メンバーも異なり、機動性を持った対応が可能なことから、今後とも設置することと致しました。

なお、この場においては、なり手のない「役員(会長1、副会長2、監査2)」の選出について、そのルール化を図るべく検討して参りましたが、適当な結論を得るに至っておりません。

今後、どのような解決策を見いだすことが出来るのか、全くの不透明ではありますが、役員の中に一人も在学を抱えている者がいないという異常な事態は避けなければなりませんので、会員の皆様には解決策を得るためのご協力をお願い致します。

以上、後援会事業の中で特徴的なことをご報告させていただきましたが、WGでの検討にもありますように、既存事業の見直しや新規事業検討は、社会経済情勢などの変化に適切に対応した事業展開を図るとともに、後援会事業の硬直化やマンネリ化を排除し、本学に学ぶ学生が快適で有意義な大学生活を送ることが出来るよう、下支えとなる効果的な事業の展開を図りたいという他にありません。

一朝一夕にこれが最善という事業展開は難しいものがあると考えておりますが、今後とも、より良い事業展開に向けて努力したいと考えておりますので、お気づきの点がございましたら、是非、事務局の方にご一報いただくようお願い致します。

また、本会報は、後援会活動の状況などを会員の皆様方にお知らせし、ご理解とご協力を得ることが何よりも大切との考え方のもと、昨年度からの新規事業として始めたものですが、これを機に後援会活動に対する「意見」「要望」などがあれば是非お寄せいただきたいと考えております。

終わりに、私ども役員はそれぞれ仕事をもちながら、言わばボランティアとして後援会活動に従事しておりますので、活動に行き届かないところもあるところですが、会員の皆様方には事情をご賢察のうえ、後援会の目的が達成できますよう、今後とも後援会活動への積極的なご参加と、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

理事長・学長挨拶

世界の転換期と
北海道文教大学の教育

学校法人鶴岡学園 理事長
北海道文教大学・北海道文教大学短期大学部 学長

鈴木 武夫



本年度は学園の創立六十五周年の式典と、記念事業としての新本館落成という大きな区切りのイベントをつつがなく成し遂げることができました。このことは、学生諸君と教職員一同、そして後援会の皆様の力の結集であることに心から感謝し、またそれを深く喜びに感じるところであります。

年度の後半に至って、米国の金融不安に端を発する経済危機の直撃によって、世界中が経済不安と連動した社会不安によって激震に見舞われました。世界が大きな転換期を迎えていることは多くの識者の指摘するところであります。我が国においては、年末になって非正規従業員の大量解雇という形で顕在化したのは、ご承知の通りであります。

私は「実学の徹底による学生の實力の伸長によって、学生をニートやフリーターにすることなく、着実な職業人にする」と大きな目標を設定しております。幸いなことに学生諸君と教職員の理解と努力により、例年就職希望者の九十五%以上の決定率を達成していることを有り難く思います。

本年度はこの経済情勢の厳しい中で、道内の企業も採用に関しては極めて慎重になっているのですが、就職課の職員を先頭に企業に対して「逆アタック」

をかけるなど奮闘してくれており、例年実績に劣らない結果を出す見通しで取り組んでくださいます。

学園もまた、新たな歩みを進める転換点に立っております。本年度から人間科学部には看護学科が設置され、現在、大学院1専攻、外国語学部3学科と人間科学部4学科、そして短期大学部1学科の体制となっております。

しかし、近年少子化の中で幼児初等教育の分野ではより高く幅広い知識と優れた技能が要請されています。これにこたえて短期大学部幼児保育学科を人間科学部でも健康学科として4年制に改組転換する方向で検討することが理事会で決定され、学部学科をあげて取り組んでおります。

組織というものは状況が困難なときにこそ、「人の和」が大切になるといえるのは歴史の教訓であります。北海道文教大学は開学十年というまだまだ若い大学であります。社会が厳しい風を送ってくる時代を、前向きなエネルギーと人の和をもって、逆にチャンスに変えていくという姿勢で進んでまいれる所存であります。後援会の皆様のなお一層のご理解ご支援をお願い申し上げます。



就職活動について(就職課からの報告)

最近の本学生の就職内定状況

近年、好景気と言われ、全国的に大学生の就職内定率も高まってきたと報道もされてきました。

しかし必ずしもそうではありません。ある銀行の道内雇用動向調査結果によると、昨年3月の新卒業者を採用した企業は、01年度からの調査以来最低となつてます。新規採用を見送った企業の多くは、現従業員で十分と回答しています。また即戦力を期待する中途採用に多くの企業は前向きに考え、実施してきています。

このような企業の採用状況で、本学は、例年外国語学部は、95%以上の高い就職決定率が続いています。

また有力401社への本学生の08年3月卒業生の就職率は、全国の大学中101番、道内国立公立私立大学合わせて5番目で文系の道内私立大学で2番目になります。有力社の選定は日系平均株価指数の採用銘柄に加え、会社規模や知名度および大学生の人気企業ランキングなどを参考に選定したものです。就職決定率に加え、この有力企業への就職実績は、本学生の就職活動の励みにもなっています。

4年生(09年3月卒業予定)の就職未内定学生への対応

昨年の秋の米国に端を発した世界的な金融危機は、企業空前の経営悪化をもたらし、大学生の新卒の就職採用に大きな影響を与えることが確実に予想されます。

それだけに、今後の本学生の就職決定の悪化が危惧されることです。昨年11月時点で未内定学生への呼び出し面接を中心に個別指導を実施してきています。より積極的な就職活動と選考試験への前向きな取り

組みを促し、履歴書の作成・模擬面接の実施など具体的に未内定学生個々の状況に合わせて進路実現の為の援助を進めています。

今年3月卒業生を対象にした行政主催の最後の企業面接会には、卒業時の就職希望全学生の就職決定を目指し、個々の学生の要望や適性に合わせた参加企業の選び方や面接の受け方について、当日会場で学生の支援を行いました。

3年生(10年3月卒業予定)の就職講座と就職活動へ支援

外部講師を中心とした外国語学部および健康栄養学科の就職講座は、後期毎週1回実施しています。

その講座の主な内容は

- ① 就職活動の意識づけと取り組み
 - ② 自己の学力を把握し、一般常識や基礎学力の点検による筆記試験対策
 - ③ 目指す職業選択のあり方
 - ④ 特性をアピールする自己分析
 - ⑤ 個人面接・集団面接および集団討議
- 毎年固定的な内容でなく、特に今年度の講座内容については、就職活動や選考試験突破に向けて、具体的に実践的な学習の講座内容で構成しています。

道内も2月6日の札幌ドームで開催の私大協主催の大規模な合同企業説明会を皮切りに企業説明会が頻繁に開催されることとなります。いよいよ道内学生の本格的な就職活動が開始されます。このことに合わせて就職講座の後半から3年生全員の個人面談を実施し、進路希望の把握と具体的な活動の進路相談を実施しています。

また幼稚園教諭、保育士養成の為の特色ある教育を実践している短期大学幼児保育学科は、卒業後、即戦力となる為の就職講座を開設しています。

また社会人として大切な礼儀作法や手紙の書き方などを「マナー演習」の中で指導していますが、この演習内容は、社会人のマナーとして大切であり、就職活動の基本的な力になると考え、内容の充実を図っています。理学療法学科1年生3年生は、3月の春休み2日間、集中就職講座を行う予定です。

後援会の資格取得の奨励について

資格は、将来の財産であり、新卒採用のメリットにもなります。それだけに、学内での資格取得に向けての講座への受講の働き掛けはもとより、それぞれの学科の学習に関わる資格取得に加えて、広く学生の目指す進路や興味に合わせて、資格取得に挑戦することを期待しています。

北海道文教大学後援会より就職支援として、在学中の資格取得を奨励する為、就職に有利と思われる定レベルの検定に合格した学生に奨励金として、その検定受験料を支給して頂いています。(08年4月から適用)

学園創立65周年記念事業による助成

後援会の学園創立65周年記念事業として、大学には、①グループ学習室の「テーブル・イス、ローパーティション及びスクリーン兼用ホワイトボード等の什器類」②1号館玄関フロアの「長いす及びテーブルの更新」、短期大学部には「吹奏楽に使用する楽器」の購入経費を助成しました。

あたつては使用申請等を提出せず、学生が自由に利用できるものとして好評であり、11月中旬から使用されています。また、大学の1号館玄関フロアには真新しい長いすとテーブルがグループ学習室の什器類と同時期に更新され、学生の休憩・待ち合わせ等に喜ばれています。短期大学部では、例年保育フェスティバルが開催していますが、この中で吹奏楽は必須のものであり、楽器自体が高価なものであるため、今回の楽器の整備・更新は非常に喜ばれています。

グループ学習室は、大学が学生の自学自習及びグループ学習に使用することを目的に旧学務部跡に整備を図ったものですが、グループ学習を行う数組の使用等を考慮して、ローパーティションで8つのブースに区分（14名グループ1カ所、12名グループ1カ所、6名グループ6カ所）され、この部分にテーブルとイスを適宜配置したものです。当室はOA仕様のフロアであるので、パソコンの持ち込み等に対応するコンセント及びモニターボード（2カ所）が設置され、使用に



平成20年度 父母懇談会を終えて

221組312名が出席

北海道文教大学後援会は、大学の各学部・学科と協同して、7月から10月にかけて父母懇談会を開催しました。大学は恵庭キャンパス、短期大学部は札幌キャンパスにおいて、それぞれ大学の期間中に開催したほか、釧路と函館の二つの地方会場で実施し、221組312名の皆様がご出席されました。

父母懇談会は、ご家庭と大学とのコミュニケーションを図ることを目的とした後援会最大のイベントです。

実施時のアンケートの結果によると、出席された会員の大半の方が有意義だったと感じています。

来年度以降もより多くの会員の皆様にご出席されることを後援会役員一同お待ちしております。



地方父母懇談会 釧路会場

後援会文庫 (図書課から)

このたびは本学後援会の新規事業として図書館資料充実のために「後援会文庫」を御寄贈いただきありがとうございます。ありがとうございました。

本学図書館は学生の皆さんの学習を支援する学習図書館として本館・約9万冊（大学・恵庭市と分館・約6万7千冊）（短期大学部・札幌市）の2つの図書館で学生の皆さんに利用していただいております。毎年本学予算で新たに約4千冊の図書館資料を整備しておりますが、学習図書館として本学図書館の蔵書数は決して多いとはいええず、利用者である学生の皆さんに満足いただける蔵書数ではありません。

御寄贈いただいた主な図書は人間科学部については国家試験対策関係図書、外国語学部については語学検定対策関係図書、幼児保育学科については子育て支援に関する視聴覚資料などで、学習図書館としての機能はさらに充実するものと思います。

本学としても学生の皆さんの学習図書館として引き続き図書館資料の整備・充実を進めてまいります。さらなる図書館資料充実のために今後とも後援会のご支援、ご協力方よろしくお願い申し上げます。